

富山もよう

新商品

富山を象徴するものたちをテキスタイルデザインにしようと、デザイナー・鈴木マサルさんとのコラボで始まった「富山もよう」プロジェクト。そのスタートは2014年、新聞本紙を「富山もよう」でラッピングするという、北日本新聞社の130周年記念企画でした。それから今日まで、合計10種のもよう柄が生まれ出されてきました。

富山県総合デザインセンターでは、2016年1月から商品開発研究会を開催し、県内のものづくり企業とともに「富山もよう」を使った新商品開発に着手。7月には「真鍮(しんちゆう)風鈴」、「紙ふうせんcusuri」、うちわ[solano(ソラノ)]を商品化し、D&DEPARTMENT TOYAMAで開催された「富山もよう展」で披露しました。続けて12月には、八尾和紙による「和紙アイテム」を商品化。「富山もよう」と「富山のものづくり」が出会うことで、ユニークな商品が次々に誕生しています。



富山もよう
テキスタイルデザイナー

鈴木 マサル
テキスタイルデザイナー
東京造形大学教授

2005年からファブリックブランドOTTAIPNUを主宰。色鮮やかなハンドプリントによるファブリックを中心に、ハンカチ、傘などを展開。国内外の多くのブランドとのコラボレーションで世界的に活躍している。



富山の売薬さんのお土産

「紙ふうせん cusuri」

昔なつかしい四角い紙ふうせんがモダンなデザインに生まれ変わりました。一つ一つ手作業でつくられた一品です。

製造元:富山スガキ(株)(富山市)



自立するうちわ

「solano (ソラノ)」

持ち手に程よい重さがあるので、扇ぎやすく手になじみます。バッグなどに入れて携帯にも便利、デスクまわりに置いてもおしゃれです。

製造元:(株)ナガ工(高岡市)



モダンな風鈴

「真鍮 風鈴」

高岡の伝統産業である鑄物の技術で作りました。夏の暑い一日を涼しく演出してくれる、真鍮ならではの澄みきった音色が特徴です。

製造元:(株)能作(高岡市)



越中八尾の和紙を使った

「和紙アイテム」

温もりのある和紙の手ざわりと富山もようがマッチ。富山の魅力を暮らしの中を感じる実用的な商品たちです。

製造元:桂樹社(富山市)



歴史と文化に根付いた暮らしの道具

「富山もよう手ぬぐい」

拭く、巻く、飾る、包むなど使い方はさまざま。「注染」という伝統技法で染め、職人による手仕事のため1枚ずつ表情が異なります。

製造元:(株)ハミングバード(富山市)